

第5 公営企業の業務の状況

1 電気事業

(1) 平成30年度予算及び経営状況

年間総販売電力量を1億6,200万キロワットアワーと見込み、これを基礎に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、電気事業収益17億3,457万5千円、電気事業費用14億5,634万6千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入10億1,368万6千円、資本的支出13億3,501万3千円を計上し、資源の有効利用と販売電力量の増加を図るため、新たな電源開発となる平瀬発電所の建設を着実に推進します。併せて、既設水力発電所の設備更新に合わせたリパワリング（水車ランナの改造等による出力向上）を計画的に推進する取り組みとして、生見川発電所及び菅野発電所に係る水車ランナの製作を引き続き実施します。

なお、水力発電の経営は、気象条件に左右されますので、貯留水の効率的運用を図ることはもちろん、気象状況の早期把握、関係機関との密接な連携などを図り、販売電力量の確保による収入の増加と経費の効率的執行により経営の安定化に努めます。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第11表 平成30年度電気事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	平成30年度 (A)	平成29年度 (B)	増 減 (A)-(B)
年間総販売電力量	161,972 MWH	157,860 MWH	4,112 MWH

第12表 平成30年度電気事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	平成30年度 当初予算額(A)	平成29年度 当初予算額(B)	比 較 (A)-(B)	(A)／(B)
収益的収入				
電気事業収益	1,734,575	1,709,928	24,647	101.4
営業収益	1,694,948	1,668,056	26,892	101.6
附帯事業収益	26,915	27,576	△ 661	97.6
財務収益	3,173	4,287	△ 1,114	74.0
事業外収益	9,536	10,006	△ 470	95.3
特別利益	3	3	0	100.0
収益的支出				
電気事業費用	1,456,346	1,554,917	△ 98,571	93.7
営業費用	1,322,654	1,437,441	△ 114,787	92.0
附帯事業費用	22,987	19,852	3,135	115.8
財務費用	16,115	21,761	△ 5,646	74.1
事業外費用	91,587	72,860	18,727	125.7
特別損失	3	3	0	100.0
予備費	3,000	3,000	0	100.0
資本的収入				
資本的収入	1,013,686	17,578	996,108	5,766.8
資本剰余金	11,456	15,050	△ 3,594	76.1
固定資産収入	1,000,001	1	1,000,000	100,000,100.0
雑収入	2,229	2,527	△ 298	88.2
資本的支出				
資本的支出	1,335,013	479,431	855,582	278.5
建設費	23,000	63,000	△ 40,000	36.5
改良費	152,219	252,437	△ 100,218	60.3
投資	1	1	0	100.0
償還金	156,693	160,893	△ 4,200	97.4
長期貸付金	1,000,000	0	1,000,000	-
補助金返還金	100	100	0	100.0
予備費	3,000	3,000	0	100.0

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額3億2,132万7千円は、内部留保資金（損益勘定留保資金、減債積立金及び消費税資本的収支調整額）で補てんします。

(2) 平成29年度下半期の業務の概要

平成29年度は、年間を通じた降雨量が、県下主要ダム（電気事業関連）地点で平年の93%となり、平成29年度の販売電力量は目標に対して93.9%、電力料金収入は目標に対して98.6%となりました。

また、最終の2月補正では、収益的収入予算においては、電力料金収入の増などにより752万2千円の増額補正を、収益的支出予算においては、人件費の減などにより3,611万4千円の減額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において17億1,745万円、収益的支出において15億1,880万3千円、資本的収入において1,631万3千円、資本的支出において4億2,711万7千円となりました。

また、新たな電源開発となる平瀬発電所の建設工事を引き続き実施するとともに、既存水力発電の設備更新に合わせたリパワリングを計画的に推進する取り組みとして、生見川発電所及び菅野発電所に係る水車ランナの製作に着手しました。

第13表 企業債及び一時借入金の状況(電気事業)

		(平成30年3月31日)		(単位 千円)
区 分	発 行 総 額	償 還 額		平成29年度末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	2,695,000	160,893	2,107,758	587,242
錦川水系発電所	1,408,000	83,637	1,092,392	315,608
佐波川発電所	286,000	16,342	218,925	67,075
木屋川発電所	152,000	9,454	116,960	35,040
新阿武川発電所	205,000	11,569	146,341	58,659
末武川発電所	476,000	29,159	376,398	99,602
小瀬川発電所	168,000	10,732	156,742	11,258
一 時 借 入 金	—	—	—	0

2 工業用水道事業

(1) 平成30年度予算及び経営状況

年間総給水量5億7,400万 m^3 と見込み、これを基礎に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、工業用水道事業収益67億3,824万7千円、工業用水道事業費用58億533万6千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入25億9,660万6千円、資本的支出67億5,900万1千円を計上し、企業債14億2,760万1千円を償還するほか、工業用水の安定した供給に資するため、島田川工業用水道建設事業などを実施します。

さらに、新規受水企業や契約水量を増やす企業に対して、引込管設置等の初期費用の支援など需要開拓を図る諸施策に引き続き取り組み、工業用水道事業の経営基盤強化に努めます。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第14表 平成30年度工業用水道事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	平 成 30 年 度 (A)	平 成 29 年 度 (B)	増 減 (A)-(B)
年 間 総 給 水 量	574,378,600 m^3	579,780,600 m^3	Δ 5,402,000 m^3

第15表 平成30年度工業用水道事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	平成30年度 当初予算額(A)	平成29年度 当初予算額(B)	比 較 (A)-(B)	(A)／(B)
収 益 的 収 入				
工業用水道事業収益	6,738,247	6,692,423	45,824	100.7
営業収益	6,163,212	6,175,134	△ 11,922	99.8
営業外収益	575,032	517,286	57,746	111.2
特別利益	3	3	0	100.0
収 益 的 支 出				
工業用水道事業費用	5,805,336	5,883,289	△ 77,953	98.7
営業費用	5,509,418	5,517,394	△ 7,976	99.9
営業外費用	285,915	355,892	△ 69,977	80.3
特別損失	3	3	0	100.0
予備費	10,000	10,000	0	100.0
資 本 的 収 入				
資本的収入	2,596,606	1,859,430	737,176	139.6
企業債	1,280,000	1,300,000	△ 20,000	98.5
資本剰余金	543,661	308,993	234,668	175.9
固定資産収入	600,001	1	600,000	60,000,100.0
雑収入	172,944	250,436	△ 77,492	69.1
資 本 的 支 出				
資本的支出	6,759,001	6,191,266	567,735	109.2
建設費	1,447,806	1,322,117	125,689	109.5
改良費	3,873,593	3,326,446	547,147	116.4
投資	1	1	0	100.0
償還金	1,427,601	1,524,435	△ 96,834	93.6
補助金返還金	0	8,267	△ 8,267	-
予備費	10,000	10,000	0	100.0

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額41億6,239万5千円は、内部留保資金(損益勘定留保資金及び消費税資本的収支調整額)で補てんします。

(2) 平成29年度下半期の業務の概要

平成29年度は、一部地域で渇水に伴う自主節水が行われましたが、安定的に給水することができました。

また、さらなる工業用水の安定供給に資するため、島田川工業用水道建設事業などを実施するとともに、需要の開拓、企業債残高の縮減などの経営基盤の強化に取り組みました。

最終の2月補正では、収益的収入予算においては、営業収益の減少などにより1,379万5千円の減額補正を、収益的支出予算においては、営業費用の減少などにより6,336万5千円の減額補正を、それぞれ行いました。また、資本的収入予算においては、負担金の増加などにより7,094万4千円の増額補正を、資本的支出予算においては、改良費の減少などにより6億6,571万9千円の減額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において66億7,862万8千円、収益的支出において58億1,992万4千円、資本的収入において19億3,037万4千円、資本的支出において55億2,554万7千円となりました。

第16表 企業債及び一時借入金の状況(工業用水道事業)

(平成30年3月31日)

(単位 千円)

区 分	発 行 総 額	償 還 額		平成29年度末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	32,588,000	1,527,660	15,347,339	17,240,661
小瀬川工業用水道	2,001,000	120,238	1,399,308	601,692
向道・川上工業用水道	1,017,000	56,837	647,042	369,958
周南工業用水道	9,632,000	439,932	3,928,287	5,703,713
佐波川工業用水道	578,000	28,047	193,613	384,387
厚東川工業用水道	6,650,000	310,800	3,256,542	3,393,458
木屋川工業用水道	3,420,000	142,785	1,523,482	1,896,518
富田夜市川工業用水道	1,370,000	59,742	407,639	962,361
厚東川第2期工業用水道	2,321,000	81,883	743,326	1,577,674
厚狭川工業用水道	2,722,000	132,191	1,314,383	1,407,617
木屋川第2期工業用水道	138,000	7,742	126,900	11,100
末武川工業用水道	129,000	8,272	107,862	21,138
佐波川第2期工業用水道	107,000	10,215	89,994	17,006
小瀬川第2期工業用水道	2,503,000	128,976	1,608,961	894,039
一 時 借 入 金	—	—	—	0